

フィル・ウッズ、男の激情

レコードライナーノーツで、時折読み返してみたくなる解説は数少ないですが、その稀
有なスルメ解説の筆頭が、ビクター音産盤・ソニー・クリス「アップ アップ アンド アウ
エイ (SMJ6268)」にかの村上春樹氏が寄せた、チャーリー・パーカー亡き跡のアルト・サ
ックスシーンを講談調に記述した「名解説」と、私は長年思っています。氏は長兄に本
日の主人公フィル・ウッズ、次男にジャッキー・マクリン、三男坊にソニー・クリスを据え、
当時の取り巻く状況を一目で鳥瞰させる仕掛。大文豪を引き合いに出すのは僭越です
が、私のKJFC担当例会第二回(2006/11)はマクリン、第五回(2008/10)はクリ
スの特集しました。本日の第七回は、遅まきながらウッズをタップリお聞き願います。

私とウッズの出会いは、大学時代に随分とお世話になったCBSソニー1100円廉価
盤シリーズで購入した「フィル トークス ウィズ キル」。明るく抜けるアルトの音色が、
録音の良さと相まって気に入り、何度もターンテーブルに乗せては聞き惚れていました。
また74年に吹き込まれたミューズの新譜「ミュージック デュボア」は、当時ジャズ喫茶の超
人気盤でした。77年10月にはクインテットで来日、札幌市民会館の公演を興奮して
聞き、レコードショップでのサイン会にも押掛け、上記2枚とモード盤の「エディ・コスタ5」
にしっかりサインをゲット。夭折したコスタのレコードを差し出しながら、拙い英語でコス
タのことを「Remember?」と尋ねたら、「Off Course!」とニッコリ返事をされた瞬間か
ら、私のジャズ人生でウッズは特別な存在となったのであります。(浮世の義理でリー
ダーアルバムの新譜CD・VINUS!のレコードも買い続け、100枚近く集まりました)

ウッズはジュリアード音楽院を卒業後、パーカーの最晩年とクロスしながら54年プレ
ステージに吹き込みを開始、リーダー・サイドメンとして数多くの録音を残す傍ら、正確な
読譜能力を買われ、ビッグバンドのソリストとしての吹き込みも多くあります。今80歳を
超えた御大はバリバリの現役で、新譜CDもコンスタントに発表していますが、どうも一
般的な人気にはやや遠いのが実態でしょうか。今は閉店した梅ヶ丘ノスタルジアレコー
ド店主が放った「ウッズは五月蠅いからどうも～」が一般的評価なのかも知れません。
確かにマシンガンの様に音符の洪水的フレーズの連続・畳み掛ける音圧で、疲れるレコ
ードも多々あります。本日のプログラムの選定に当たっては、その様な皆さんの危惧を
念頭に置きつつも、私が最頂の「ウッズおとこ節」をコレクションの中から23枚に絞り、
緩急併せ選曲したつもりです。(大部分が50年代に偏ってしまいましたが)

それでは長男・ウッズの旺盛なエネルギーに溢れる作品たちをお楽しみください。

PHILIP WELLS WOODS (1931.11.2-)

1. Phil Woods New Jazz Quartet (New Jazz LP 1104)

Phil Woods (as) ・ Jon Eardley (tp) ・ George Syran (p)
Teddy Kotick (b) ・ Nick Stabulas (ds) 1954.10.12

A-1 Pot Pie (J.Eardley) 5:15

ウッズの初リーダーアルバム。初録音はサイドメンとして参加したギターのジミー・レイニークインテット 10 インチ(New Jazz LP1102/1954.8.11)のようです。
1と2の 10 インチ盤は同じメンバーで相前後して発売されました。トランペットのジョン・アドレイはズート・シムズとのデュクレテ・トムソン盤での共演でも有名ですね。
この2枚を 63 年にカップリング、12 インチ LP・Pot Pie(New Jazz 8291/ジャケット写真を後掲)として再発されました。

2. Encores by the Phil Woods New Jazz Quartet (Prestige LP 191)

Phil Woods (as) ・ Jon Eardley (tp) ・ George Syran (p)
Teddy Kotick (b) ・ Nick Stabulas (ds) 1955.2.4

A-1 Cobblestone (G.Syran) 5:10

3. Jazz Laboratory Series Volume:2 (Signal S 102)

Hall Overton (p) ・ Phil Woods (as)
Teddy Kotick (b) ・ Nick Stabulas (ds) 1955

A-2 Yesterdays (Herbach,Kern) 7:50

サクソ奏者の教習用ミュージック マイナスワン レコードとして制作されました。B面はウッズ抜きのカラオケバージョン、何とも気の抜けたトラックが続きます。教則だけあってウッズは正確にメロディーを奏でてきます。つい最近、本プログラムの作成過程にて、某コレクターとのトレードで入手しました。

4. A Night at the Five Spot (Signal S 1204)

Duke Jordan (p) ・ Phil Woods (as) ・ Cecil Payne (bs)
Frank Socolow (ts) ・ Wendell Marshal (b) ・ Art Taylor (ds) 1957.8

B-2 Scrapple from the Apple (C.Parker) 8:45

パーカー亡き後の追悼ライブ、パーカー作曲のオリジナル曲を4曲熱演しています。

5. Woodlore (Prestige PRLP 7018)

Phil Woods (as) • John Williams (p)

Teddy Kotick (b) • Nick Stabulas (ds) 1955.11.25

A-2 Falling in Love All Over Again (Hefti) 4:41

A-3 Be My Love (Cahn,Brodsky) 5:36

12 インチリーダーLPとして初めて世に出たレコードです。少しくスクラッチ・ノイズが入りますが、ワンホーンの華麗な音色に免じて傾聴ください。

6. Jazz for the Carriage Trade (Prestige PRLP 7032)

George Wallington (p) • Phil Woods (as) • Donald Byrd (tp)

Teddy Kotick (b) • Bill Bradley (ds) 1956.1.20

A-2 Our Love is Here to Stay (Gershwin) 5:30

ジョージ・ウオーリントン・クインテット、伝説的なカフェ・ボヘミア ライブから4月後の録音、マクリーンに代わりウッズがフロントを担っています。

7. Pairing Off (Prestige PRLP 7046)

Phil Woods/Gene Quill (as) • Donald Byrd/Kenny Dorham (tp)

Tommy Flanagan (p) • Doug Watkins (b) • Philly Joe Jones (ds) 1956.6.15

B-2 Suddenly It's Spring (Burke,Van Heusen) 8:27

アルト・トランペットそれぞれ2管編成の珍しいセプテット。

(この録音日は個人的に決して忘れることの出来ない日です)

8. The Young Bloods (Prestige PRLP 7080)

Phil Woods (as) • Donald Byrd (tp) • Al Haig (p)

Teddy Kotick (b) • Charlie Pership (ds) 1956.11.2

B-3 Lover Man (Ramrez) 5:48

パーカーの十八番をラストに配したこのレコード、未亡人チャンに捧げた曲も演奏しています。バードとのフロントも本当に相性が良いですね。

9. Four Altos (Prestige PRLP 7116)

Phil Woods/Gene Quill/Sahib Shihab/Hal Stein (as) • Mal Waldron (p)

Tommy Potter (b) • Louise Hayes (ds) 1957.2.9

A-1 Pedal Eyes (M.Waldron) 7:35

電線に停まる4羽の小鳥、パーカーの子供達を暗示する秀逸なジャケットですね。アルトのソロオーダーはシハブ⇒ステイン⇒ウッズ⇒クイルの順。

10. Jazz on the Rocks (Regent MG6061)

Don Bagley (b) ・ Phil Woods (as) ・ Sal Salvador (g)

Eddie Costa (p.vib) ・ Charlie Pership (ds) 1956

A-1 Come Out Swingin' (D.Bagley) 5:35

地味なリーダー、ドン・バグレーと当時のウッツの仲間達とのリラックスした演奏。

11. Sugan (New Jazz NJ8304⇒Status ST8304)

Phil Woods (as) ・ Ray Copeland (tp) ・ Red Garland (p)

Teddy Kotick (b) ・ Nick Stabulas (ds) 1957.7.19

A-3 Last Fling (P.Woods) 6:35

初発は16-5番。長時間収録を狙い16回転レコードの片面にLP一枚分を収録したシリーズの1枚。流石にハードが普及せず、全く売れなかったようです。因みにもう1面はウッツも参加しているジョージ・ウオーリントンのニューヨーク・シーンです。

12. Eddie Costa Quintet (Mode LP #118)

Eddie Costa (p) ・ Phil Woods (as) ・ Art Farmer (tp)

Teddy Kotick (b) ・ Paul Motian (ds) 1957.7

A-3 Big Ben (P.Woods) 5:05

ウッツとの個人的思い出のレコード。大好きなコスタのリーダーアルバムですが、ウッツも大きくフューチャーされ、流れるようなソロをとっています。別のトラック(A-2)では、ヴァイブのバックでなんとウッツのピアノも聞けます。

13. Phil Talks with Quill (Epic LN3521)

Phil Woods / Gene Quill (as) ・ Bob Corwin (p)

Sonny Dallas (b) ・ Nick Stabulas (ds) 1957.9

B-1 Dear Old Stockholm (folk song,S.Gets) 9:10

ジャズを聴き始めた大学生の頃にこのレコードに出会い、ハード・バップの魅力を120%感じました。ジーン・クイルとのサクソバトルもスリリングです。この双頭バンドはRCA/PRESTIGEにもアルバムがあり其々良い出来ですが、なんと云ってもこのEPIC盤が最高です。

14. Warm Woods (Epic LN 3436)

Phil Woods (as) ・ Bob Corwin (p)

Sonny Dallas (b) ・ Nick Stabulas (ds) 1957.10

A-1 In Your Own Sweet Way (D.Brubeck) 8:05

A-2 Easy Living (Robin,Rainger) 4:53

50年代のワンホーン最高傑作の1枚、肩の力が抜けたバラードが何よりの魅力です。私的にはウッズベスト3には必ず入るこのレコード、最初に購入したCBSソニー盤もいい音をしていました。この皿はウッズがお好みでない梅ヶ丘ノスタルジアレコード店主より格安で譲り受けました。本当は両面全部お聞き頂きたいのですが…。

15. Once Around the Clock with Patricia Scot (ABC 301)

Patricia Scot (vo) ・ Phil Woods (as)

The Creed Taylor Orchestra 1958

A-3 Nothing at All (J.Frigo) 2:26

ワン・ショット・ワンダー、一枚限りの歌手を称して通のボーカルファンは色々自分の好みの歌手を秘蔵してきましたが、この辺りも最近 CD で再発されました。ウッズの絡むサククスをお聞き下さい。

16. It's About Time (RCA Victor LSP-2486)

Joe Morello (ds) ・ Phil Woods (as) ・ Gary Burton (vib)

And others 1961

A-2 Time After Time (Styne ,Cahn) 3:56

昨年鬼籍に入ったデイブ・ブルーベック・カルテット不動のドラマー、ジョー・モレロのリーダーアルバム。当時ハイファイレコードの代名詞だった、RCA リビング・ステレオレコードシリーズ。TIME に因んだ曲を集めた企画、主役を中央、左翼にウッズ・右翼にバートンを配しています。

17. The Swinger from Rio (Atlantic 1434)

Sergio Mendes (p) ・ Phil Woods (as) ・ Antonio Carlos Jobin (g)

Tiao Netto (b) ・ Chico DeSouza (ds) 1964.10

A-1 Maria Moita (C.Lyra-V.Moraes) 3:27

セルメンとの競演、ゲッツ・ジルベルトの二番煎じではありませんが、余りヒットはしなかったようです。

18. A Generation Ago Today (Verve V-8656)

Kenny Burrell (g) ・ Phil Woods (as)

Ron Carter (b) ・ Grady Tate (ds) 1966.12.15

A-2 Poor Butterfly (Golden-Hubbell) 5.43

ウッツのリーダーアルバム？と思うぐらい出番が沢山あるこの録音、RVGとウッツとの相性の良さも感じます。

19. Alive and Well in Paris / Phil Woods and

His European Rhythm Machine (Pathe Marconi SPTX 340.844)

Phil Woods (as) ・ George Gruntz (p)

Henri Texier (b) ・ Daniel Humair (ds) 1968.11.14

A-1 And When You Are Young (P.Woods) 14:00

(Dedicated to Bob Kennedy)

60年代、ヨーロッパ在住の頃のレコードはピエール・カルダン盤を始め一通り集めました
が、時代を反映したフリーキーな激しい演奏が多く、正直余り聞くことはありません。
しかしこの1曲は永遠の名曲ですね。最近イタリアの美形ボーカリスト・ミカエラ・ロンバル
ディとウッツとのコラボCDにも再録されました。

20. Phil Woods and Japanese Rhythm Machine (RVC RCA-6335)

Phil Woods (as) ・ 市川 秀男 (p)

古野 光昭 (b) ・ ジョージ 大塚 (ds) 1975.7.31 東京厚生年金会館

A-2 Spring Can Really Hang You Up The Most (T.Wolfe) 7:04

日本のリズム隊とのコラボライブ、熱気が伝わってきます。最近コンディションの良い盤
に買い替えしました。

21. Toach (Warner Bros. BSK3592)

Carly Simon (vo) ・ Phil Woods (as) ・ Mike Mainieri (vib)

Warren Bernhardt (P) ・ Eddie Gomez (b) ・ Grady Tate (ds) 1981

A-5 Body and Soul (Heyman) 4:12

カーリー・サイモンは昔からのお気に入り、ポツポツレコードを集めていました。彼女の
ジャズ・アルバム3部作の一枚目、他のトラックはマイケル・ブレッカーが寄り添って
いますが、この1曲のみウッツが参加、ソロもとっています。編曲はマーチィ・ペイチ。
ロックのコーナーでただ同然にて手に入れました

22. Three for All (enja 3081)

Phil Woods (as) ・ Tommy Flanagan (p) ・ Red Mitchel (b) 1981.1.6

B-3 Goodbye Mr. Evans (P.Woods) 7:47

この録音の前年9月、天に召されたエヴァンスに捧げた素敵な曲です。3名の職人達による、味のある演奏に聞き惚れるレコード。

23. Musique du bois (Muse MR5037)

Phil Woods (as) ・ Jaki Byard (p)

Richard Davis (b) ・ Alan Dawson (ds) 1974.1.14

B-1 The Last Page (Beck-Woods) 9:06

ラストは何と言ってもこのレコード。学生時代に惚れた、男ウッツの真骨頂。B面を聞くといつも元気が蘇ります。

Coffee Brake

The Stranger ⇒ 日本盤シングル

Just the Way You Are (邦題 素顔のままで)

Billy Joel(vo) Futuering Phil Woods (as) 1977

近年TOYOTA エスティマのCMでもウッツのソロが効果的に使われていました。我蘭堂さんもお気に入りですね？

Play Henry Mancini (Jazzed Media CD JM1002) ⇒ CD

Phil Woods (as) ・ Carl Saunders (tp) ・ Jeff Jenkins (p)

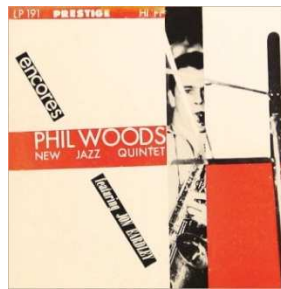
Ken Walker (b) ・ Paul Romanie (ds) 2003.8.26

12 Two for the Road (H.Mancini) 9:36

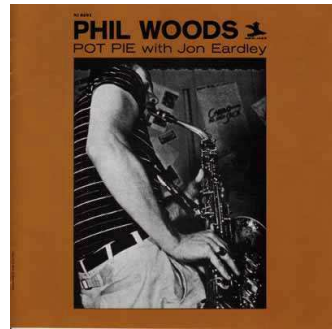
このところ嵌っている映画の主題歌、ジャネット・サイデル (vo) の台北ライブ DVD が可憐でした。大好きなヘップバーンが主演、倦怠期を乗り越える夫婦のストーリー「いつも二人で」、随所にこのマンシーニの佳曲が流れます。



1



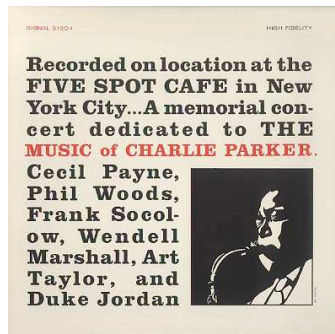
2



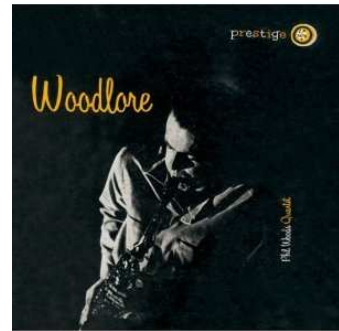
1+2



3



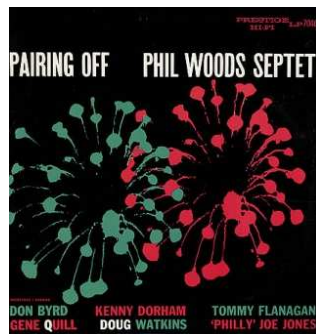
4



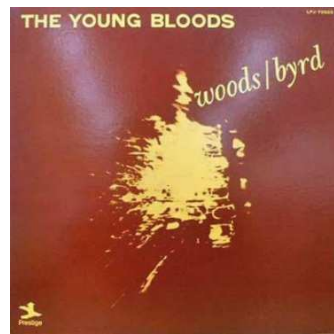
5



6



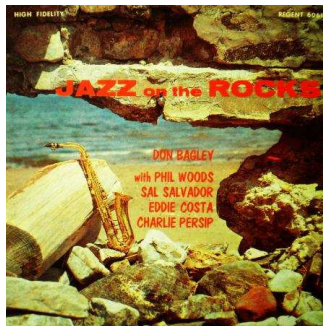
7



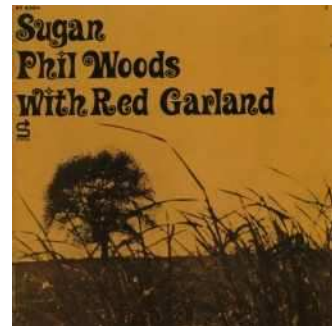
8



9



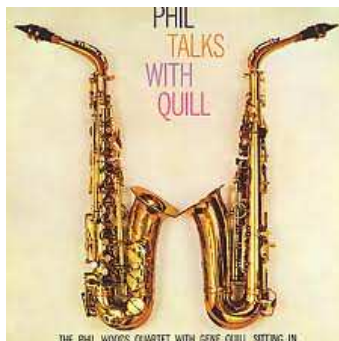
10



11



12



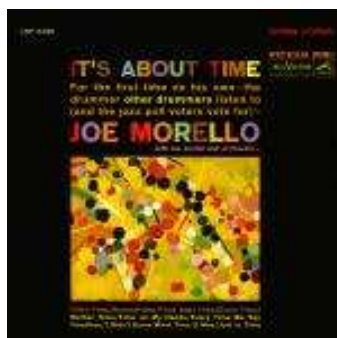
13



14



15



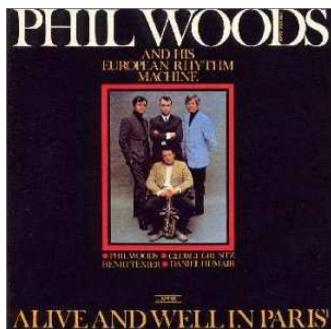
16



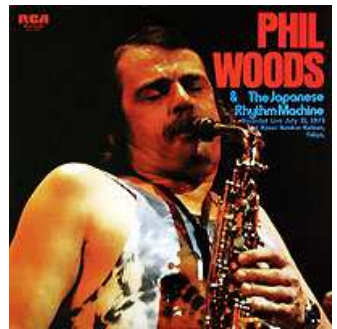
17



18



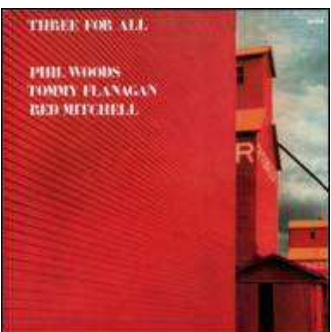
19



20



21



22



23